

## 研究主題「体力の向上を図るための児童の自己評価を生かした指導の工夫

### —小学校中学年『ゲーム』を通して—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
羽村市立武蔵野小学校 主任教諭 片山 伸哉

#### 第1 研究のねらい

子供たちの体力が長期的に低下傾向にあり、保護者の世代より大きく低下している。このような状況を踏まえ東京都では、児童・生徒の「体力向上」を喫緊の課題と捉え、「一校一取組」・「一学級一実践」運動や「からだであそぼうウィーク」などを実施して体力の向上を図るための取組を行っている。学校においても運動好きの子供を育て、体の動かし方や運動の仕方を理解させるような指導をするなど体育授業の改善・充実を図っている。

体育の学習では、児童が運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決していく自己評価活動を充実させていくことが重要であると考えます。

そこで本研究では「児童の自己評価」に着目し、研究主題を「体力の向上を図るための児童の自己評価を生かした指導の工夫」と設定した。そして、集団的な運動において一人一人の学習に対する目的意識や意欲を高めていくことに焦点を当て、ゲームを通して主題に迫ることとした。

#### 第2 研究仮説

教員が児童の自己評価を生かして、児童の学習への興味・関心や目的意識を高める指導をすることにより、児童は意欲的に運動に取り組み、技能を高めながら体力の向上を図ることができるであろう。

#### 第3 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

##### (1) 子供の体力の現状と体力の向上について

###### ア 東京都の調査から

平成24年度の東京都の児童・生徒の体力・運動能力は依然、全国より低い水準ではあるが、小学校では調査項目の半数以上が全国平均値と同程度またはそれ以上の結果であり、改善の傾向が見られる。

###### イ 文部科学省の資料から

平成21年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、体育の授業で、動きのコツがわかり運動がうまくできるようになった児童は、授業が楽しく体力が高いという結果が示されている。そして、体力を向上させるために重要なことを以下のように示している。

- 体育の授業の中で、様々な運動に挑戦させ、その技能を習得することにより、できた達成感や充実感を味わわせる。
- 運動をさらに反復したり、新しい課題に挑戦するサイクルを繰り返したりする。
- 児童が運動の楽しさや喜びを感じられるような体育の授業を展開する。

以上のことから、児童が運動の楽しさを感じ、意欲的に運動に取り組んだり繰り返し運動したりして技能を高めることは、体力の向上に重要であると考えます。

## (2) 自己評価活動を生かした指導の工夫と課題について

児童の自己評価活動を重視した学習を展開することは、児童の学び方や学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるという成果が先行研究からも明らかになっている。一方、技能に視点を当て児童一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導の在り方を明らかにすることが課題として挙げられている。

### 2 調査研究

平成24年7月に都内公立小学校学級担任82名を対象に、体育の指導と評価に関するアンケート調査を行った(図1)。

この調査結果から、児童の自己評価活動を基に、指導の成果や課題を明らかにすることが重要であると意識している教員は94%であるが、実際に実施している教員は41%であり、意識と実施状況の間に53%の開きがあることが分かった。また、児童の自己評価活動を基に、次時以降の指導内容を

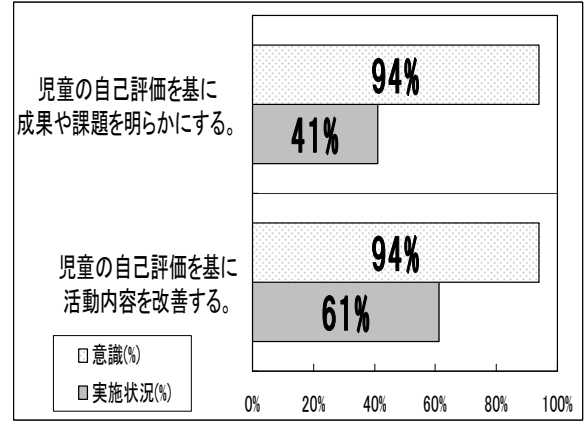


図1 指導と評価に関する調査結果

改善することが重要であると考えている教員は94%であるが、実際に実施している教員は61%であり、意識と実施状況との間に33%の開きが見られた。いずれも重要であると考えているが、実施できていない状況が明らかになった。この理由として、「自己評価を生かした指導方法がよく分からないこと」や「運動量を十分に確保する必要があること」が聞き取りから把握できた。

以上のことから、効果的で分かりやすい自己評価の方法が求められており、指導と評価を関連させる指導や、児童の自己評価を生かし、児童に目的意識をもたせる授業改善を促進させる必要があると考える。

### 3 開発研究

基礎研究や調査研究の結果から、教員が指導と評価を関連させ、児童に目的意識をもって活動させる指導の工夫が必要であると考えた。そこで、児童の自己評価を次の活動や指導に生かすボードとそれを用いた指導計画を開発した。

#### (1) 自己評価ボード

児童が評価項目ごとに「よくできる」「できる」「もう少し」の3段階で行った自己評価を色分けして一覧に示し、学級全体の技能の高まりを確かめたり、ルール作りに生かしたりするものである。

#### (2) 自己評価ボードを用いた指導計画

自己評価ボードを活用する場面や発問を指導に位置付けた指導計画を作成した。授業では、導入・展開・まとめのそれぞれの場面でボードを用いる。導入では児童に学習への目的意識をもたせ、展開

表1 自己評価ボードの活用場面と目的

活用場面	活用目的
導入 (めあての確認)	学習への目的意識をもたせる。
展開 (学習内容の確認)	活動内容の目的を理解させる。 ゲームのルール作りの参考にさせる。
まとめ (学習の振り返り)	学習の成果と課題を確認する。 学級の成長の様子をつかむ。 次時への意欲を高める。

ではゲームのルール作りの参考にさせる。また、まとめでは学習の成果と課題を確認したり学級の成長の様子をつかんだりさせる。活用場面と活用目的は表1のとおりである。

## 4 検証授業

### (1) 検証授業の概要

ア 対象 都内公立小学校第4学年

イ 内容 「ゲーム」ネット型ゲーム（ソフトバレーボール）

ウ 時期 平成24年10月～11月

### (2) 自己評価ボードを用いた授業

前時の活動を、ボードを基に振り返り、技能の高まりを実感させるとともに課題を明確にした（個人の課題と学級の課題）。また、学習への目的意識をもつことができた。

**前時を振り返り、技能の高まりを実感する。**



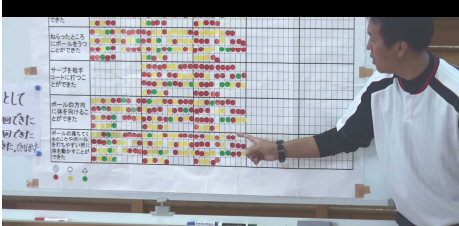
ボードを基に運動のねらいを理解した。繰り返し運動に取り組み、技能が向上した。

**できるようになるまで繰り返し運動に取り組む。**



技能の習熟の様子をボードで確認しながらルールについて話し合いをした。全体の習熟度を基にルール作りを行った。

**技能の習熟の様子を見てルール作りに生かす。**



自己評価をシールで貼り一覧にした。ボードを基に技能の変容について発問し、学級の成長を認め合った。また、課題も確認した。

**自己評価をシールで貼り、学習を振り返る。**



### 自己評価ボードを用いた学習モデル

	学習内容・学習活動	ボードを使用する場面と目的
導 入	1 学習の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返りをする。</li> <li>・本時のねらいを明確にする。</li> </ul> <p>○自己評価ボードを見てめあてを立てる。 ○学習内容を確認する。 (活動の目的を児童に理解、納得させる)</p>
	2 準備運動	
展 開	3 技能を高める運動	<p>○個人で技能を高める。 ○集団で技能を高める。 (学級の実態に即した活動内容と場を設定する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての振り返りを簡単に行う。</li> </ul>
	4 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのルールについて話し合う。</li> <li>・自己評価の基準を再確認する。</li> </ul> <p>○ゲームに慣れながら、チームの特徴をつかむ。</p>
ま と め	5 学習の振り返り	<p>○学習カードを基に振り返りをする。 ○自己評価ボードに自己評価をシールで貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の成果、課題を確かめる。</li> <li>・これまでの学級の成長を全体で確かめる。</li> <li>・次時の活動への意欲を高める。</li> </ul> <p>○自己評価ボードを見て感想や気付いたことを発表する。</p>
	6 片付け	

### (3) 検証授業の考察

#### ア 目的意識や意欲の変容

児童の学習カードの記述について分析した結果、表3のようにA児は「相手のいないスペースに打って点を取る」と、

	第1時	第2時	第3時	第4時
A児のめあて	◎をふやす。	けんかをしていないで楽しくやりたい。	ゲームでねらった所に打つ。	相手のいないスペースに打って点を取る。

めあてを具体的に立てるようになり、運動の目的意識を高めることにつながった。

また、他の児童の中には、自己評価ボードを授業の導入の場面で使うことにより、前時の学習を踏まえためあてを立てるようになった児童もいた。さらに、自己評価ボードを授業のまとめの場面で使うことで、「少しずつみんな上手くなっているから、私もがんばりたい。」や「前よりもっと上手くなったと思う。でも、もっと上手になりたい。」という記述のように、学級全体の成長や個人の成長を感じ取り、さらに意欲を高めて運動に取り組むことにもつながった。

以上のことから、自己評価ボードを使い児童の自己評価を生かす指導により、児童が運動への目的意識や意欲を高めていることが分かった。

#### イ 技能の向上

授業記録を分析した結果、指導前にどのような技能が必要であることを児童に示したため、児童は高める技能をしぼって繰り返し運動に取り組み、技能を高めることができた。また、「この技能を高めるためにこの活動をする」と教員が活動の目的を明確に示したことで、児童は納得・理解して運動に取り組んでいた。

#### ウ 児童の意識の変化

指導前と指導後の児童の意識についてアンケート調査を行った(図2)。

自己評価ボードを使い児童の自己評価を生かした指導をした結果、83%の児童がめあてを意識した活動をするようになり、91%の児童がめあての振り返りをするようになった。自己評価活動が学習の中に定着してきたことが分かる。また、81%の児童がどんな力を身に付けるかを理解して活動しており、目的意識をもって運動に取り組んでいることが分かった。

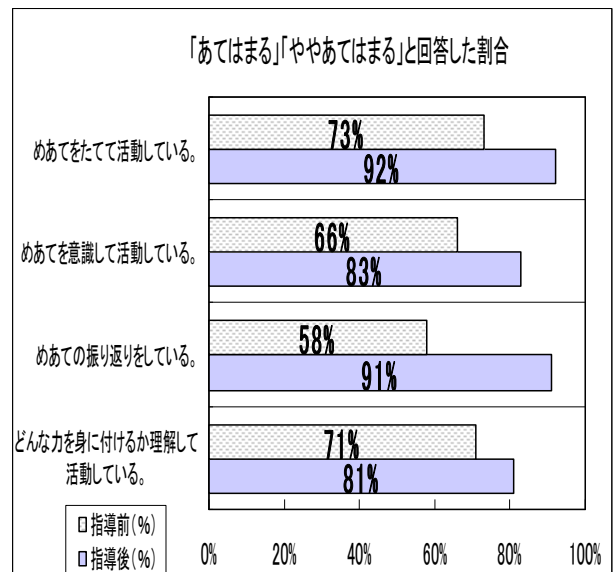


図2 指導前と指導後の児童の意識

### 第4 研究の成果

- ・ 教員が児童の自己評価を生かし、自己評価ボードを使って指導を工夫することにより、児童の運動に対する目的意識を高め、意欲的に運動に取り組むことができるようになった。
- ・ 教員が児童にめあてを意識させることにより、児童は繰り返しできるようになるまで運動に取り組み、技能を習得していくことができた。

### 第5 今後の課題

- ・ ゲーム領域だけでなくボール運動領域など他の運動領域においても、自己評価ボードを使った指導の工夫を行う。